

学会だより

◇ 会員の荣誉

矢野昌裕会員が平成 25 年度日本農学賞を受賞

本会会員矢野昌裕氏は、平成 25 年 1 月 28 日、「イネの量的形質に関する分子遺伝学的研究」の業績により、日本農学会から平成 25 年度「日本農学会賞」を授与されることが決定しました。

日本農学会賞は、農学上顕著な業績を挙げたものに対して日本農学会から贈られるものです。

授与式は平成 25 年度 4 月 5 日（金）午前 10 時より東京大学山上会館において行われます。

◇ 英文誌 *Breeding Science* の PubMed Central における公開のお知らせ

Breeding Science が PubMed Central (PMC) に公開されました。

<http://www.ncbi.nlm.nih.gov/pmc/journals/1822/>

現在公開されている論文は、BS61-4 ~ 62-2 です。以降の論文についても、順次公開される予定です。

◇ 地域談話会だより

＜北海道地区＞

下記の日本育種学会・日本作物学会 北海道談話会のシンポジウム、年次講演会ならびに総会を開催した。

シンポジウム「北海道の低蛋白良食味米生産技術の現状と課題」（日本水稲品質・食味研究会との共催）

◎平成 24 年 10 月 27 日 上川生産連農業会館（旭川市）
演題（4 演題）：北海道米の良食味生産の経過と現状。稲津脩（開発肥料販売（株））／蛋白質含有率に及ぼす栽培条件。長田亨（道総研中央農試）／澱粉構造等から見た食味特性。五十嵐俊成（道総研上川農試）／生産現場からみた技術的課題。桑原英郎（上川農業改良普及センター）

◎平成 24 年度一般講演会 平成 24 年 12 月 1 日 北海道大学農学部

演題（42 演題）：稲作北限地で野生イネを用いた育種の意義とそのプロセスの検証○伊藤勇樹・清水博之（北農研）／マツ科樹液精油の水田施用によるイネの生長・収量改善効果○岩切日香里・本多博一・徳橋和也・丸一徹・秋本正博（帯広畜産大）／十勝地方における陸稲栽培の模索—平成 24 年度の試験栽培の結果—○平井祐人・秋本正博（帯広畜産大）／イネ葯培養効率におよぼすカルス誘導期の培養温度の影響○九島有梨華・我妻尚広・岡本吉弘（酪農学園大）／いもち病抵抗性および穂ばらみ期耐冷性を集積したイネ多収系統の開発と特性評価○池ヶ谷智仁・横上晴郁・松葉修一・黒木慎・早野由里子・斎

藤浩二・清水博之（北農研）／イネゲノムに内在する DNA 型ウイルス様配列とエピソード DNA の AT 連続配列への挿入○劉瑞芳¹・小柳香奈子²・陳孫祿¹・貴島祐治¹（1. 北大農学院, 2. 北大情報科学研究科）／イネ生育初期の低温抵抗性遺伝子 *qCTP11* の遺伝子作用○上野陽花¹・品田博史²・徳井真由美¹・三浦秀穂¹・大西一光¹（1. 帯広畜産大, 2. 道総研上川農試）／北海道の酒造好適米と府県米の醸造適性の比較○田中一生¹・岩間和人²（1. 道総研農業研究本部, 2. 北大院農）／ゼンコウジコムギ× Chinese Spring の組換え自殖系統を用いた種子休眠性に関するゲノムワイドな QTL 解析○曹良子¹・林和希^{1,2}・横石智彦¹・徳井真由美¹・加藤清明¹・大西一光¹・三浦秀穂¹（1. 帯広畜産大, 2. 現・空知農業改良普及センター北空知支所）／コムギ萎縮病抵抗性遺伝資源およびその抵抗性に連鎖した DNA マーカー○鈴木孝子¹・小倉玲奈¹・神野裕信²（1. 道総研中央農試, 2. 道総研北見農試）／赤かび病抵抗性レベルが異なる二つの春まき小麦育成系統における殺菌剤処理回数減少の影響○田中由紀・筒井一郎・太田宇香・小川麻奈（ホクレン農業総合研究所）／緩効性肥料を用いたパン用小麦品種「ゆめちから」の収量と子実タンパク含有量（2）○中司啓二・横田聡・石田茂樹・西尾善太（北農研）／パスタ用コムギ品種「北海 259 号」の収量・子実タンパク質含有率およびパスタの嗜好性に及ぼす後期窒素施肥量および施肥時期の影響○杉山由吏¹・義平大樹¹・牛木純²・宮腰義貴¹・緒形直樹¹・筒井静子¹・小阪進一¹（1. 酪農学園大, 2. 北農研）／パスタ用コムギ品種「北海 259 号」の収量・子実タンパク質含有率に及ぼす播種時期、播種量、窒素施肥量および施肥時期の影響—キタホナミとの比較—○宮腰義貴¹・義平大樹¹・牛木純²・杉山由吏¹・小阪進一¹（1. 酪農学園大, 2. 北農研）／春まきコムギの蛋白質含量向上と多収を目指した育種に関する一考察○神野裕信¹・西村努²・来嶋正朋¹・足利奈奈¹（1. 道総研北見農試, 2. 道総研中央農試）／バレイショの有機栽培において根量が生育及び収量に及ぼす影響○小浦拓馬¹・市川伸次²・岩間和人³（1. 北大農, 2. 北大北方生物圏フィールド科学センター, 3. 北大院農）／2 倍体バレイショ集団における乾燥抵抗性と根形質の関係○高橋陽平¹・新谷浩樹²・市川伸次³・岩間和人¹（1. 北大院農, 2. 北大農, 3. 北大北方生物圏フィールド科学センター）／日長時間および種イモの齢がバレイショの塊茎および根の生長に及ぼす影響○小林司¹・谷川潤²・出口哲久¹・市川伸次³・岩間和人¹（1. 北大院農, 2. 北大農, 3. 北大北方生物圏フィールド科学センター）／バレイショ「スノーマーチ」における出荷後早期萌芽条件の特定（内生休眠期間が短縮する条件）○荒木英晴・井村直樹・山下茂（網走農業改良普及センター）／異なる培土条件におけるバレイ

シヨのジベレリン処理が塊茎数へ及ぼす影響の品種間差
 異○津田昌吾・岡田昌宏・田宮誠司・西中未央・浅野賢
 治(北農研)／培養変異を利用したそうか病抵抗性バ
 レイシヨ系統の作出○富田謙一・藤田涼平(道総研北見農
 試)／ジャガイモシストセンチュウ抵抗性遺伝子 *HI* 数
 の迅速推定法の開発○浅野賢治・田宮誠司(北農研)／モ
 バイルデバイスをを用いた圃場形質調査の効率化○岡田昌
 宏¹・浅野賢治²・平藤雅之²・三浦秀穂¹(1. 帯広畜産
 大, 2. 北農研)／ヒユ類の繁殖特性○石川枝津子・白木
 一英(北農研)／普通ソバ難脱粒素材のコンバイン収穫
 による損失の評価○森下敏和・鈴木達郎(北農研)／ダ
 ッタンソバの収量改善に向けた適切な摘芯処理時期の検討
 ○杉澤健太・福井瞳・秋本正博(帯広畜産大)／直播てん
 さいの土壤診断に基づく適正施肥によるコスト低減○沢
 口敦史¹・小野寺政行¹・小山拓也²・田中芳明²・内藤誠
²(1. 道総研北見農試, 2. 網走農業改良普及センター遠
 軽支所)／2012年のテンサイ生産力試験における萎黄症
 状の影響○高橋宙之・黒田洋輔・田口和憲・岡崎和之(北
 農研)／テンサイの花成へ個体サイズ, 温度, 光環境が及
 ぼす影響○黒田洋輔・田口和憲・岡崎和之・高橋宙之(北
 農研)／ススキゲノムに見いだされたソルガム *Maturity*
1 (Ma1) 様遺伝子配列の解析○杉澤駿¹・長野宏則²・山
 田敏彦²(1. 北大農, 2. 北大北方生物圏フィールド科学
 センター)／ダイズ品種の栽植密度に対する分枝可塑性
 に及ぼす伸育性の影響○阿古達木¹・義平大樹¹・荻野孝
 二¹・小阪進一¹・白岩立彦²(1. 酪農学園大, 2. 京大
 院農)／群落構造における日米品種間の比較—栽植密度
 に対する変化—○荻野孝二¹・義平大樹¹・阿古達木¹・小
 阪進一¹・白岩立彦²(1. 酪農学園大, 2. 京大院農)／
 近年の北海道ダイズ育成系統の収量性と外来遺伝資源の
 導入効果の検証○大西志全・鴻坂扶美子・藤田正平(道
 総研中央農試)／「フクユタカ」由来のダイズ育成系統の
 多収要因解析○鴻坂扶美子・大西志全・山下陽子・塚本
 康貴・藤田正平(道総研中央農試)／青ダイズにおけるク
 ロロフィル含量および組成の品種間差○小林秀樹¹・阿
 部純¹・大橋栄美子¹・喜多村啓介¹・草場信²・山田哲也¹
 (1. 北大院農, 2. 広島大理)／人工マイクロRNAを介し
 た種子貯蔵タンパク質欠損ダイズの作出と種子貯蔵成分
 の解析○森芳広¹・丸山伸之²・阿部純¹・山田哲也¹(1.
 北大院農, 2. 京大院農)／野生ダイズにおけるDDMPサ
 ポニンのラムノース転移に関わる変異体の分子遺伝学的
 解析○香月遼¹・川崎翔太²・山下祐佳²・塚本知玄³・喜
 多村啓介²・阿部純²・山田哲也²(1. 北大農, 2. 北大
 院農, 3. 岩手大農)／異なる登熟温度条件下で栽培した
 ダイズ種子における, フラボノイド生合成関連遺伝子の
 発現解析○鳥井綾子¹・金丸京平¹・船附秀行²・喜多村啓
 介¹・阿部純¹・山田哲也¹(1. 北大院農, 2. 北農研)／
 非感光性ダイズにおける開花関連遺伝子の発現解析○竹
 島亮馬・徐美蘭・山田哲也・阿部純(北大院農)／キンギョ
 ソウ *nivea* 座における2つのトランスポゾンの挟み撃ち

○海老沼一出¹・内山貴子¹・樋浦里志¹・千田峰生²・三
 上哲夫¹・貴島祐治¹(1. 北大院農, 2. 弘前大農)／北
 海道におけるキリンソウの葉緑体ゲノム○柿下彩夏・我
 妻尚広・岡本吉弘(酪農学園大)／北海道におけるゼンテ
 イカの葉緑体ゲノムの遺伝変異○石田光・我妻尚広・岡
 本吉弘(酪農学園大)

〈近畿地区〉

2012年12月8日(土)に第174回近畿作物・育種研究
 会例会を京都大学農学部で開催した。74名の参加者があ
 り, 京都工芸繊維大学名誉教授でEco植物研究所の巽二
 郎先生による特別講演の他に, 11題の一般講演があり,
 活発な質疑応答が行われた。

◎一般講演

- 栽培方法を異にした丹波大納言小豆の収量・品質に及
 ぼす播種時期の影響 ○來田康男¹・牛尾昭浩¹・芦田龍太
 郎²・片岡茂里³・藤本周作⁴・竹村雅彦⁴(1. 兵庫県立
 農林水産技術総合センター, 2. 兵庫県加西農業改良普及
 センター, 3. 兵庫県阪神農業改良普及センター, 4. 丹
 波ひかみ農業協同組合)
- パン用小麦「ミナミノカオリ」の出穂10日後追肥が
 子実タンパク質含有率に及ぼす影響 ○宮脇武弘・松本
 純一・小河拓也・岩井正志(兵庫県立農林水産技術総合
 センター)
- 南米野生イネ *Oryza glumaepatula* と *O. grandiglumis* の
 洪水下での伸長にエチレンは主要な役割を果たさない
 ○置塩琢磨・東哲司・伊藤一幸(神戸大学大学院農学研究
 科)
- 水田雑草オモダカとウリカワの塊茎からの節間伸長を
 促進する要因 ○酒井久輝・東哲司・伊藤一幸(神戸大
 学大学院農学研究科)
- チタルム川流域チヘア灌漑地区の農家圃場における水
 稲の収量および生育特性 ○原律子¹・Gunardi Sigit²・本
 間香貴¹・Handarto³(1. 京大院農, 2. ATC, West Jawa,
 3. UNPAD)
- 酒造掛米用水稲新品種「京の輝き」の育成 ○尾崎耕
 二^{1,2}・三浦清之³・笹原英樹³・重宗明子³・後藤明俊⁴・
 長岡一朗³・藤田守彦^{1,5}・今井久遠¹(1. 京都府農林水
 産技術センター, 2. 現京都府農林水産部, 3. 中央農業
 総合研究センター, 4. 作物研究所, 5. 現中丹西農業改
 良普及センター)
- 和歌山県在来の薬用紫蘇系統の特徴および単色光補光
 による生育調節 ○堀端章・矢田清・松川哲也(近畿大
 学生物理工学部)
- 光和周波分光法による米粒の観察 ○長谷川博¹・興
 山涉²・李紅燕^{1,2}・水谷五郎²・宮村弘明³・日野耕作³(1.
 滋賀県立大学環境科学部, 2. 北陸先端科学技術大学院大
 学, 3. 滋賀県農業技術振興センター)
- Identification of genomic regions involved in proanthocyanidin
 content in black seed-coated soybean (黒ダイズのプロアン

トシアニン含量に關与するゲノム領域の同定) ○ Phommalath Siviengkhek・寺石政義・築山拓司・奥本裕(京都大学大学院農学研究科)

10. 砒素中性子捕捉反応(BNCR)の植物突然変異育種への応用 ○岩本千里・築瀬雅則・森川利信(大阪府立大学大学院生命環境科学研究科)

11. エンバクのサツマイモネコブセンチュウ抵抗性遺伝子の探索とその育種への利用 ○中岡史裕¹・桂真昭²・立石靖²・築瀬雅則¹・森川利信¹(1. 大阪府立大学大学院生命環境科学研究科, 2. 九州沖縄農業研究センター)

◎特別講演

「安定同位体を利用した作物の成長・機能の解析」 巽二郎(Eco植物研究所, 京都工芸繊維大学名誉教授)

〈中国地区〉

2012年12月8, 9日に第4回中国地域育種談話会を岡山大学において開催した。参加人数は48名、プログラムは下記の通りである。

◎第4回中国地域育種談話会

【1日目】(2012年12月8日(土)13:00~17:30)

○招待講演1「Salinity tolerance: Hydroponics, HVP and other candidate genes involved in plant response to salt with a range of pH」Yuri Shavrukov(The University of Adelaide, Australia)

○ポスター発表 26題

【2日目】(2012年12月9日(日)9:30~12:00)

○招待講演2「オオムギゲノム配列の概要」佐藤和広(岡山大学資源植物科学研究所)

○招待講演3「農作物種における新規活動型レトロトランスポソンの同定とその利用」門田有希(岡山大学大学院環境生命科学研究科)

○一般講演1「ストリゴラクトンを介した葉老化制御機構の解析」上田浩晶(広島大学大学院理学研究科)

○一般講演2「The Protection and Utilization of Tea Germplasm Resources in Yunnan, China」李亜莉(中国・雲南農業大学茶学院)

〈四国地区〉

2012年11月29, 30日に育種学会四国談話会講演会(第77回)および公開シンポジウム(作物学会四国支部と共催)を香川県農業試験場において開催した。それぞれの参加人数は16名, 79名、プログラムは下記の通りである。

◎シンポジウム(2011年12月29日(木)13:00~16:00)

テーマ:「香川県農試の育種, 栽培研究の現状」

○小麦「さぬきの夢2009」の育成と栽培方法: 藤田究(香川県農業経営課)

○イチゴの種子繁殖型品種, 香川農試における開発の現状: 井口工(香川県農業試験場野菜・花き部門)

○カーネーション新品種の育成: 瀬尾龍右(香川県農業

試験場野菜・花き部門)

○県オリジナルラナンキュラス「てまりシリーズ」の育成: 村上恭子(香川県農業試験場野菜・花き部門)

○県オリジナルキウイフルーツの開発と栽培方法: 山下泰生(香川県農業試験場中果樹研究所)

◎第77回日本育種学会四国談話会講演会(2012年11月30日(金)9:30~12:30)

1. アントシアニンは紫外線によるDNA損傷のフィルターとして働くか?

○池田滋(香川大遺伝子実験施設)

2. プリムラ・ポリアンタ類の組織培養による大量増殖可能性の検討

○松本雄太郎・大橋広明(愛媛大農)

3. 根切片培養によるシコクカッコソウ4倍体のクローン増殖の検討

○松岡春奈・藤井枝里・大橋広明(愛媛大農)

4. シコクカッコソウおよび近縁種・種間雑種の花茎からの無菌植物獲得方法の検討

○三井良介・山岡真梨子・大橋広明(愛媛大農)

5. シコクカッコソウ近縁種および種間雑種の無菌植物増殖方法の検討

○山岡真梨子・三井良介・大橋広明(愛媛大農)

6. *Pelargonium oblongatum*の葉片培養におけるオーキシンとサイトカイニンの影響

○大矢祐一郎・本藤加奈・柿原文香(愛媛大農)

7. コルヒチン処理による四倍体*Pelargonium appendiculatum*作出法の検討

○朝倉健太・本藤加奈・柿原文香(愛媛大農)

8. *Pelargonium*属*Hoarea*節野生種のRAPD解析

○伊藤智理・本藤加奈・柿原文香(愛媛大農)

9. オオムギゲノム配列の概要

○佐藤和広(岡山大植物研)

〈九州地区〉

2012年10月10, 11日(木)に第7回九州育種談話会を九州沖縄農業研究センター水田作園芸研究領域(福岡県筑後市)において開催した(実行委員長 坂井真, 参加者数45名)。下記に示す招待講演者による特別講演の後, ポスター発表による一般講演を行った(21課題), ならびに実行委員長の案内による水稻育種圃場の見学会を行った。

日時: 2012年10月10, 11日(木) 特別講演: 13:10~15:10, 一般講演: 15:10~16:10, 圃場見学会: 16:10~17:15

会場: 九州沖縄農業研究センター水田作園芸研究領域 大会議室

懇親会: 同 情報交流室

◎特別講演

福岡県におけるブドウ育種の現状と今後の展望: 白石美樹夫(福岡県農業総合試験場) / 高ビタミンC含有イチ

ゴ品種「おいCベリー」の育成経過と健康機能性を育種目標とした品種開発の展望：首根一純（九州沖縄農業研究センター水田作・園芸研究領域）／野菜茶業研究所におけるチャ育種について：谷口郁也（野菜茶業研究所枕崎拠点）／私たちが圃場で探しているもの～九州沖縄農業研究センターの稲育種：坂井真（九州沖縄農業研究センター水田作・園芸研究領域）

◇ 研究助成金のご案内

〈バイオインダストリー協会から賞及び研究奨励金候補者募集のお知らせ〉

（一財）バイオインダストリー協会では毎年、バイオインダストリー協会賞、発酵と代謝研究奨励金、化学素材研究開発振興財団記念基金「グラント」研究奨励金の候補者を募集して、顕著な業績を顕彰し、また有望な研究者に対し研究奨励金の交付を行っています。

いずれも応募締切は**2013年5月7日（火）**です。

バイオインダストリー協会賞

発酵と代謝研究奨励金

化学素材研究開発振興財団記念基金「グラント」研究奨励金

バイオインダストリー協会のホームページ (<http://www.jba.or.jp/>) に募集要項を掲載していますので、ご参照下さい。

◇ 集会のご案内

〈第18回国際窒素固定会議(18th International Congress on Nitrogen Fixation)のお知らせ〉

開催日：2013年10月14-18日

開催場所：宮崎市ワールドコンベンションセンター

第18回国際窒素固定会議(18th ICNF)は、窒素固定分野に関連する全世界の研究者が一堂に会する国際会議で、隔年で開催されております。第18回は本邦初となり、宮崎市ワールドコンベンションセンターで開催されます。セッションは以下の通りですが、窒素固定に限らず、植物と微生物との共生科学やそのバイオリソース・ゲノム解析について、また生物界の窒素循環など幅広い分野について、発表と議論を行います。

①ニトロゲナーゼの化学・生化学・テクノロジー

②生物的窒素固定の生理と制御(ラン藻)

③窒素サイクル(脱窒、培養困難な窒素固定生物、動物共生)

④バイオリソースとゲノム科学

⑤植物と微生物のシグナリング

⑥マメ科植物と根粒菌の共生窒素固定

⑦非マメ科植物と窒素固定細菌の共生(フランキア、エ

ンドファイト)

⑧植物養分吸収と微生物共生(窒素、リン酸、モリブデン、菌根菌)

⑨生態学と応用

18th ICNFへの多くの皆様のご参加を、心よりお待ちしております。

詳しくは、webページ(<http://icnf18.brc.miyazaki-u.ac.jp/index.html>)をご覧ください。

第18回国際窒素固定会議組織委員会委員長 南澤究(東北大学大学院生命科学研究所・教授)

問い合わせ先:東京農工大学大学院農学研究科 第18回国際窒素固定会議組織委員 大津直子

TEL: 042-367-5677, FAX: 042-367-5677

e-mail: nohtsu@cc.tuat.ac.jp

日本育種学会会員異動(2012.10.21～2013.1.20)

◇ 普通会員入会：佐藤三佳子、積山昇司(北海道)、八重樫弘樹(岩手)、佐伯研一(宮城)、鬼頭英樹(秋田)、安達俊輔、遠藤真咲、鈴木啓太郎、田中剛、冨田朝美、山崎宗郎、横井彩子(茨城)、飯牟礼隆、周天甦(群馬)、吉田明希子(東京)、猪熊貴之、小林正明(神奈川)、濱登尚徳、宮下朋美(新潟)、古藤田信博(静岡)、赤木剛士(京都)、高橋知佐子(広島)、緒方大輔、濱田美智雄、宮崎真行(福岡)

◇ 学生会員入会：岩城玲香、小笠原慧、竹島亮馬、森芳広(北海道)、高橋由衣(岩手)、安食政史、古武城由貴、前田隼輔、山村香織(宮城)、TURKI NEJLA、伊東拓朗、黄永興、後藤幸久(茨城)、菊池沙安(群馬)、鶴飼優子、菅野健太(千葉)、清水義弘、田中美久(福井)、前沢みなみ(長野)、望月孝子(静岡)、大前南美、小澤美沙(愛知)、岡田聡史(兵庫)、長谷川晃一(奈良)、北原真衣、末貞辰朗、山城憲子(福岡)、佐藤越萌(熊本)

◇ 外国会員入会：IWATA AIKO(アメリカ合衆国)

住所変更等

◇ 普通会員：鈴木千賀(北海道)、久保堅司(福島)、七夕高也(茨城)、有賀大輔(神奈川)、三浦清之、山口誠之(新潟)、太田敦士(京都)、笠島一郎(奈良)、近藤勝彦(岡山)、塔野岡卓司、中村和弘、渡邊敦史(福岡)、渡辺啓史(佐賀)

◇ 逝去

中島阜介さん、平成25年1月19日(土)ご逝去(享年70歳)

慎んでご冥福をお祈りいたします。